

言語とコミュニケーションの哲学・倫理学

国際関係学科 **飯野 勝己**

●連絡先 E-Mail : k-iino@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

哲学, 倫理学, 言語哲学, コミュニケーション,
言語行為論

20世紀イギリスの哲学者・J.L. オースティンによって提起された「言語行為」の観点を軸にして、「言語とコミュニケーションの哲学」およびその展開としての倫理学的問題に取り組んでいます。

①「言語行為」という観点の理論的整備

言語行為という観点の中心に、「発語内行為」という概念があります。たとえば「私は明日会議に出席する」という発言の場合、たんなる予定の「言明」になることもあれば、他者に向けての「約束」になることもあります。これら「言明」や「約束」が発語内行為と言われるもので、コミュニケーション行為の中軸をなすものと考えられています。これらが何によって決定づけられるのか、なぜそれが重要なのか、といった今も決着をみていない問題に取り組み、コミュニケーション行為の原理や構造の解明を目指しています。

②上記に関連する倫理的問題の探究

たとえば「約束」が以後の自己の行動を拘束するように、言語行為（発語内行為）は実効的な力を持ちます。そのもっとも苛烈な現れが、「言葉の暴力」という問題です。ネットコミュニケーションの普及とともに新たな様相で社会に蔓延する言語的暴力という倫理的問題に、言語哲学の観点から取り組んでいます。

アピール ポイント

テーマに関連する著書・訳書
飯野勝己『言語行為と発話解釈——コミュニケーションの哲学に向けて』勁草書房、2007年
J.L.オースティン／飯野勝己訳『言語と行為——いかにして言葉でものごとを行うか』講談社
学術文庫、2019年

①新興・途上国のマクロ経済モデル分析

②アジア途上国の経済開発、中国の台頭と日本のODA

国際関係学科 **飯野 光浩**

●連絡先 TEL: 054-264-5382 FAX: 054-264-5382

キーワード

マクロ経済学, 開発経済学, 国際経済学,
新興・途上国, アジア経済



①新興・途上国のマクロ経済モデル分析

現在、中国、インドなどのBRICSに代表される新興国が世界経済で存在感を増している。これらの経済は先進国にない特徴をもっている。それは一国経済に占める農業部門の比率の高さである。現在の主流のマクロ経済モデルは基本的に先進国を想定しているので、生産部門として工業(製造業)のみを仮定して分析を進めている。

本研究では、その主流のマクロモデルに農業部門を導入した新興・途上国向けの開発マクロモデルを構築して、金融政策・財政政策のマクロ経済政策やその他の政策などが経済や農業部門、農村都市間労働移動などに及ぼす効果を理論的に研究・分析している。

②アジア途上国の経済開発、中国の台頭と日本のODA

アジア地域というと世界経済の成長エンジンということで注目されがちであるが、もちろんすべてのアジアの国が豊かであるというわけではない。ラオス、カンボジア、ミャンマーなどアジアにはまだ開発途上の国が多い。従来、これらの諸国の経済開発はメコン流域という地域の枠内での開発の観点から論ぜられることが多く、アジア開発銀行(ADB)などの国際機関もその観点から開発を促進している。

しかし、現在の状況を鑑みると、この観点は重要な点を見逃している。それはこのアジア途上国地域における中国の台頭である。ラオス、カンボジア、ミャンマーなどでは中国の多額の経済援助により、その存在感が増加している。日本は経済状況などにより政府開発援助(ODA)を削減しており、その中でいかに効率的にアジア途上国地域にODAを配分して、日本の存在感を高めていくかは重要な課題である。この課題を、関係者へのインタビューや資料収集などによる現地調査や各種統計データを用いて実証的に研究している。

エスニック関係と国際労働力移動—東南アジアの事例から—



国際関係学科 **石井 由香**

● 連絡先

E-Mail : yishii@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

シンガポール, マレーシア, エスニック関係, 外国人労働者, 経済発展, 異文化理解



グローバル化の時代において、異文化をいかに理解するか、また違う考えを持つ人々とのように共存していくのが、大きな課題となっている。東南アジアは文化的多様性に富む地域であり、そのなかでも私はマレーシア、シンガポールにおいて研究を行ってきた。この両国とも、人口比率は異なるが、マレー人、華人、インド人といった宗教、言語など多様な文化的背景を持つ人々の間にいかに良好な関係を築くかという課題に、国の政策において、また人々の日々の実践において、試行錯誤を続けてきた国である。さらに、どちらの国も経済発展に伴い外国人労働者の受入国になっており、外国人労働者と国民との関係も注目されるのである。本研究は、世界への眼を開くと同時に、多様な文化的背景を持つ他者との関わり方を考える契機ともなる内容を持っている。



アピールポイント

マレーシア、シンガポールの現地のエスニック関係や文化に関する基礎的な情報提供、異文化環境における人間関係構築に伴う問題についての相談等、一定の協力ができる可能性がある。

「食の安全」と国際貿易



国際関係学科 石川 義道

- 連絡先 TEL : 054-264-5112
- ホームページ <https://researchmap.jp/y.ishikawa?lang=ja>

キーワード

世界貿易機関（WTO）、国際通商法、食の安全、国際食品規格委員会（CODEX）、国際放射線防護委員会（ICRP）



2018年度の我が国の食料自給率はカロリーベースで37%である。単純化を恐れずにいえば、我々は普段の食事で約6割を輸入食品から摂取していることになる。ともすれば我々は「国産食品＝安全、輸入食品＝危険」というイメージを抱きがちであるが、実際には食品衛生法で定められる検査・監視を通じて、輸入食品についても国内産品と同様に安全性が確保されている。すなわち食の安全は原産国だけで決まるものではなく、安全な輸入食品もあれば、危険な国産食品も存在するのである。したがって、真の意味で食の安全を実現するためには、消費者が「国産か否か」に加えて、「安全か否か」という観点から食品を購入・摂取するリテラシーを身につけることが重要となる。このような問題意識から、静岡県内産食品と輸入食品のあらたな「共存」のあり方を模索している。



ゼミで見学に訪れた名古屋税関・清水税関支署（本人撮影）

アピールポイント

輸入食品の安全性を確保するための国際・国内ルールのあり方について解説・調査が可能。

女性活躍促進、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、家族問題の研究

国際関係学科 犬塚 協太

●連絡先 TEL: 054-264-5329 FAX: 054-264-5099

キーワード

家族, 男女共同参画, ワーク・ライフ・バランス, ダイバーシティ, 子育て支援



少子高齢化による労働・消費人口の減少、若年世代の流出とそれに伴う地域の衰退、そして厳しい労働環境に対する働く人々の将来不安など、現代日本の社会・経済システムが抱える根本的な問題状況を踏まえて、これからの企業に不可欠なのは、性別を問わず、優秀な人材を確保し、その定着と活用を図る男女共同参画に立脚したダイバーシティ経営戦略である。子育てや介護と仕事を両立できる環境を整備することは、あらゆる世代の男女が「時間制約」のもとでしか働けないこれからの社会構造のもとで、企業にとって経営上の必須の視点となる。こうした観点を中心に、特に女性の活躍を促進し、企業におけるダイバーシティ、従業員のワーク・ライフ・バランス実現、次世代育成支援を充実させる方策に資する研究を進めている。



アピールポイント

- 女性の活躍促進策のポイントを示し、経営戦略としてのダイバーシティに基づく効果的取組が実現できる。
- ワーク・ライフ・バランス実現のための方策の具体的提示や、その効果的な運用方法を明らかにできる。

第二言語学習者による動詞の習得と効果的な指導方法

国際言語文化学科 岡村 明夢

• 連絡先 TEL : 054-264-5387
E-Mail : okamura.h@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

第二言語習得, 英語教育, 文法指導

日本語を母語とする英語学習者の動詞の習得について研究しています。習得の過程において、学習者がどのような誤りをするのか、なぜその誤りが起こるのかを明らかにします。第二言語学習者による文法上の誤りには様々な要因が関係しており、習得過程においてどのような要因の影響を受けるのかを調べることで、人間の認知メカニズムの解明につながると考えています。

また、文法の誤りの原因を明らかにすることで、学習者がどのような場面で誤りを起こしやすいのかを英語教員が把握することができ、外国語教育においてその文法をどのように教えることが効果的なのかを考える上での重要な資料ともなります。研究で得られた知見を英語教育に応用し、効果的な文法指導方法を考えていきます。

日本人はいかに生きたか—日本仏教・武士道

国際言語文化学科 木澤 景

●連絡先 TEL: 054-264-5331

キーワード

日本仏教, 武士道, 倫理学, 修行, 天台思想, 浄土思想, 念仏, 覚悟, 敵討

日本仏教や武士道を題材に、かつての日本人が自分の人生をいかなるものと捉えてそれぞれの生を営んだかという倫理学的研究を行っている。とくに、「修行」をキーワードに、修行者が何を目指し、何を己に課して日々を生きたかに注目している。かつての日本人の人間観や世界観をふまえ、今日に生きる我々との違いや通底する要素を浮かび上がらせる事により、現代人の生についても普段意識されない方面から光をあてることを目指している。研究テキストは、地獄・極楽の記述で有名な源信（942-1017）の『往生要集』や、「武士道と云は死ぬ事と見付けたり」の語がよく知られている山本常朝（1659-1719）口述の『葉隠』などを中心に扱っている。研究テーマは仏教では天台思想、浄土思想（念仏）、武士道では覚悟や敵討の問題などである。



国際刑事裁判を主な題材とした、国際法上の主体とそれらの相互関係の研究

国際関係学科 **北野 嘉章**

●連絡先 TEL: 054-264-5328 FAX: 054-264-5328

E-Mail: y-kitano@u-shizuoka-ken.ac.jp

●ホームページ <https://researchmap.jp/y-kitano/>

キーワード

国際刑事裁判, 国際連合, 国際刑事裁判所, 国際人権法, 武力紛争法, 国際刑事法, 国際組織法



国際刑事裁判は、第2次世界大戦後のニュルンベルク裁判や東京裁判のような古い事例も存在しますが、冷戦終了後の1990年代以降に国際人権法や武力紛争法の遵守を確保する手段、また国連安保理が平和を維持・回復するために用いる方法として注目されるようになり、2002年に常設の国際刑事裁判所（ICC）が設立されました。これまで私は、国際刑事裁判に関する制度や事例を主な題材として、国家や国連やICCといった国際法上の主体の特徴とそれらの相互関係を研究し、その成果を日本語や英語の論文等で発表してきました。また、現在私は本学で、国連などの国際機関のあり方を規律する国際組織法の教育を主に担当しています。私は今後も、堅実な研究を積み重ねつつそれを活かした教育や社会活動を行い、国際刑事法と呼ばれる比較的新しい法分野の着実な発展や理解の促進に貢献したいと考えています。



オランダのハーグに所在する国際刑事裁判所の建物

("International Criminal Court Headquarters, Netherlands" by Hypergio is licensed under CC BY-SA 4.0)

アピールポイント

国際刑事裁判や国際人権保障に関する講演等をお引き受けできます。

歴史認識の越境化と公共史の実践



国際言語文化学科 剣持 久木

● 連絡先 TEL : 054-264-5253 FAX : 054-264-5253

キーワード

歴史認識, 公共史, ヨーロッパ, 歴史教科書, 博物館, 東アジア



オバマ大統領の広島訪問によって日米間の歴史認識問題は大きく前進したかもしれないが、東アジアでは歴史認識問題は依然大きな障害になっている。本研究は歴史認識問題の解決のために、地域統合が進むヨーロッパで進行中の「公共史」の実践に注目する。歴史認識問題を公共史の問題と捉え直すならば、国際的な次元と国内的な次元の二つが存在する。本研究は、この二つの次元における公共史の実践を総合的に検討し、歴史研究と社会のニーズとの相関関係という視点で考察する。国際的には、国境を超える歴史教科書、博物館などの状況を、国内的には多様なメディアを通じた歴史研究の成果の啓蒙/受容の関係性を検討する。いわば、歴史認識をめぐるタテ(専門家/一般)とヨコ(国境)に存在してきた境界を超える可能性についての研究である。



下段右の写真 引元: https://www.bundestag.de/webarchiv/textarchiv/2015/kw19_gedenkstunde_wkii_rede_winkler-373858

アピールポイント

日本と近隣諸国の間の歴史認識問題解決のための具体的な提言を行います。

フランス現代政治および欧州外交史、欧州の外交安全保障



国際関係学科

小窪 千早

● 連絡先

TEL : 054-264-5335

キーワード フランス, シャルル・ドゴール, ヨーロッパ, 欧州統合, EU (欧州連合), CSDP (共通安全保障・防衛政策), NATO (北大西洋条約機構), 日欧関係



フランスの政治外交史、特にドゴール政権期から現代に至るフランスの外交・安全保障政策についての研究を行うとともに、EU や NATO を中心とするヨーロッパの政治・外交・安全保障政策の研究を行っている。ヨーロッパの統合は外交・安全保障分野にも及んでおり、またとりわけロシアのウクライナ侵攻以降、欧州地域の安全保障は国際秩序の動向そのものにも重要な影響を及ぼしている。また近年では、インド太平洋地域における日本と欧州諸国との安全保障協力も急速に緊密になっている。フランスなど欧州諸国の政治と EU や NATO の動向を分析することにより、ヨーロッパの重層的な理解に努めるとともに、現在の国際政治における日欧協力の可能性についても研究を進めていきたいと考えている。

国際関係学部



**アピール
ポイント**

フランスなど欧州諸国の政治や EU および NATO の動向など、現在の欧州情勢や国際安全保障に関する分析などで一定の協力ができます。

アフリカ地域研究、グローバリゼーション研究、人類学

国際関係学科 湖中 真哉

● 連絡先 TEL : 054-264-5267 FAX : 054-264-5099

キーワード 東アフリカ, ケニア, 牧畜民, 遊牧民, マーサイ, サンプル, 国際開発, 国際協力, 国内避難民, 経済人類学, 生態人類学, 物質文化



1990年以降、東アフリカで長期の臨地調査研究に従事している。研究のおもな対象は、ケニア・タンザニアに居住し、牧畜を主な生業とするマー系の人々（マーサイ、サンプル等）。専門は学際的な総合的地域研究。極度の貧困、国際開発、国際協力、紛争と難民、平和構築、環境と資源、異文化表象とメディア、フード・セキュリティとセーフティ・ネット、緊急人道支援等、グローバリゼーションに関連する諸課題を研究している。

オーラルヒストリーによる韓国知日派知識人に関する研究

国際言語文化学科 小針 進

(本研究内容についてご興味のある方は、地域・産学連携推進室までご連絡ください。)
TEL : 054-264-5124 E-Mail : renkei@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

日韓関係, 韓国社会, オーラルヒストリー, 眺め合い, 朝鮮半島情勢, 対外意識, 韓流, 韓国政治, 知日派

オーラルヒストリー・メソッドを主に用い、韓国社会で影響力を持ってきた知日派の知識人や政治家を対象に体系的な「語り」を得て記録化することを主に行ってきた(写真は、その成果をまとめた刊行物)。現代日韓関係の再照明を行うことが目的である。

オーラルヒストリーの意義のひとつは、既存の文字記録だけでは知りえない話を得られる点である。会話でpushするうちに、話者の記憶の片隅からファクトや思いを引き出す(pull)ことが可能だ。これまで一般には知られていない多くの韓国社会と日韓関係に関する知的な「語り」を得ることができた。政府間の公式発表、メディアによる報道や言説だけではわからないことである。

日韓関係は、「1945年に終戦—65年に国交樹立」、「親日と反日」・・・といった図式的な構図だけでは理解できない。多元的な人的関係によって構築されてきたことが、知日派知識人の「語り」から見えてくる。



国際海洋法をめぐる諸問題および国際法上の免除に関わる諸問題

国際関係学科 **坂巻 静佳**

- 連絡先 E-Mail : sakamaki@u-shizuoka-ken.ac.jp
- ホームページ <https://researchmap.jp/10571028>

キーワード

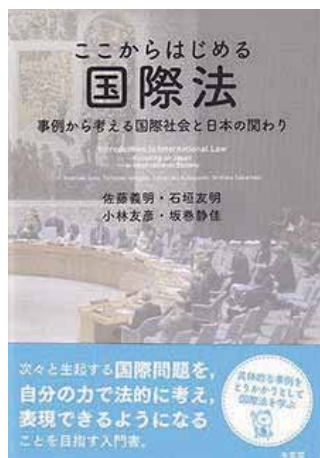
海洋, 漁業, 海洋環境, 外国国家, 裁判手続, 国際法, 国際海洋法



私の専門は国際法です。なかでも主として、①国際海洋法と②国際法上の免除について研究しています。

①国際海洋法とは海洋に関する国際法です。海洋をめぐる様々な問題について国際海洋法がどのように規律しているのか、またそれはどのような状況をもたらしているのか等について分析したりしています。海洋環境の保護、海洋生物多様性の保全等は、海洋に関わる喫緊の課題です。これらの課題に関わる国際法規則の検討にも取り組んでいます。

②国際法上、国家は他国の国内裁判所の裁判手続から免除される、また国有財産は他国の国内裁判所の判決の執行から免除されるという規則が確立しています。これを国家免除または主権免除といいます。20世紀半ば以降、外国国家等に対し免除を付与する範囲は、徐々に限定されてきました。そこで、現行国際法上、国家はどのような場合に外国国家等に対して免除を付与することを義務づけられるのか等について研究しています。



アピールポイント

国際法に関する調査等が可能です。
国際法に関するレクチャーや講師等をお引き受けできます。

自由・民主主義を追求するアメリカ政治外交

国際関係学科 佐藤 真千子

●連絡先 TEL: 054-264-5385
E-Mail: machikos@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

信教の自由, LGBT, 人権, 企業, 制裁, 説明責任
(アカンタビリティ), 表現の自由, プライバシー, アメリカ



建国理念の自由・民主主義を追求するアメリカ合衆国の政治・外交を研究しています。特に諸外国の人権や自由の問題に関する外交政策の形成過程に注目しています。アメリカは人権侵害に関与している個人やその協力者に対して入国禁止、資産凍結などの経済制裁を課しています。またグローバル化した世界の市民・団体が各国の企業の労働環境を注視しています。

あなたの会社、職場、取引相手は大丈夫ですか。日本も例外ではありません。ある日突然、会社の関係者が制裁対象になったり、グローバル化した社会の市民があなたの会社、工場、商品に対して反対運動や不買運動を展開したりするかもしれません。世界があなたの会社をどんな視点で見ているかご存知ですか。いくつかの国際的な指標、制裁、企業への反対運動について事例を紹介しつつ、会社が怠ってはいけない配慮、取り入れるべき取り組みについて情報提供します。



ホワイトハウスや議会の前で特定の国に対するデモを行う人々

アピール ポイント

特に、海外で企業活動を行っている方々、これから進出しようと考えている方々に参考にしていただきたい情報やアドバイスを提供します。

COIL 型教育の実践と効果

国際言語文化学科 澤崎 宏一

●連絡先 TEL : 054-264-5352

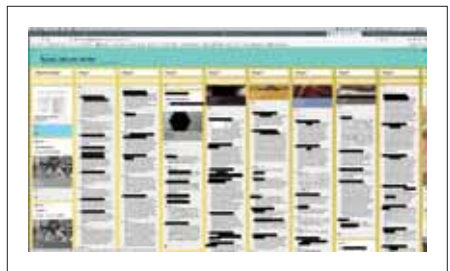
キーワード

COIL 型授業, 日本語, 第二言語習得

COILとは、Collaborative Online International Learningの略語で、インターネットを活用して離れた2つの（異文化の）教室が共に学び合うための教育方法のことをいいます。これまで、静岡県立大学と米国の大学、そして国内の大学と、Padlet, Flipgrid, Zoom等を用いて学生同士がつながり、授業の一環として協働学習を試みています。

実践一覧：過去の接続先（2019年から）

ノースカロライナ大学シャーロット校（米国）の日本語クラス
オークランド大学（米国）の日本語クラス
ゴンザガ大学（米国）の日本語クラス
三重大学の留学生クラス など



世界政体／世界文化の理論構築に貢献する グローバル・テスト・ガバナンスの研究

国際言語文化学科 澤田 敬人

●連絡先 TEL：054-264-5254 FAX：054-264-5254

キーワード 世界政体／世界文化、同型化、政策借用／教育借用、オーストラリア、プリンシパル＝エージェント関係、新制度主義、ハイスティクス性、グローバル・テスト・ガバナンス、多文化主義



OECD の PISA など代表される国際学力調査への参加国が徐々に増えている。その一方で先進国・発展途上国・新興国の別を問わず世界各国は自前の学力調査を実施する政策を精力的に進めている。グローバル化した時代における国際と国内双方のテスト政策を分析する視角として、本研究では国民国家／国民文化と同じ機能を残しつつも国境を越えたより大きな単位として世界政体／世界文化を措定し、なぜ世界各国は同時に国際学力調査と自前の国内学力調査を行う判断に至るのかを明らかにする。このように世界政体／世界文化の中でグローバルに収斂する理論を提示しつつ、世界各国に見られる判断の差異については、国際・国内双方のテスト政策に見られるハイスティクス性に重点を置いて各国事例を積み上げている。ハイスティクスなテストは状況に応じて簡単にローステイクスに移行し、その逆の向きも確認されている。本研究ではとりわけオーストラリアの国内学力調査である NAPLAN によるテスト政策を各国事例の一つとして精査している。



アピール ポイント

本研究で論じている世界政体／世界文化は世界で統一的な価値がもしあるとしたらそれは何なのかを追究しています。人類文化の多様性の研究で道に迷ってしまったかたは、ぜひ本研究をヒントに再出発し目的を遂げてください。

東南アジアのイスラーム



国際言語文化学科
(イスラーム学、地域研究) **塩崎 悠輝**

- 連絡先 E-Mail : shiozakiyuki@u-shizuoka-ken.ac.jp
- ホームページ <https://db.u-shizuoka-ken.ac.jp/show/i-shiozakiyuki.html>

キーワード イスラーム、イスラーム法学、東南アジア、マレーシア、インドネシア、ファトワー、スーフィズム、ロヒンギャ、ウラマー



東南アジア、特にマレーシアやインドネシアにおけるイスラームについて研究しています。特に、イスラーム法学の分野の研究が中心です。中東やインドとの交流を通して、東南アジアのイスラーム法学が発展してきた歴史が主な研究課題です。東南アジアでイスラームがどのように学ばれているのか、また、東南アジアから中東へイスラームについて学ぶために留学する人々についても研究しています。著書に、『国家と対峙するイスラーム マレーシアにおけるイスラーム法学の展開』（作品社、2016年）などがあります。

東南アジアにおけるイスラームについての研究の一環として、イスラームを理念に掲げた政治運動、ロヒンギャ難民問題、日本に居住する東南アジアのムスリムなどについても研究しています。



図1 東南アジアで学ばれてきたイスラーム法学の古典書



図2 マレーシアのイスラーム学校で学ぶ生徒たち

**アピール
ポイント**

東南アジアのイスラーム団体、イスラーム教育機関、政治指導者に精通しています。

地域の文化財「羽衣」の教育・観光への活用 —学生×産官学による地域活性化—



国際言語文化学科 鈴木 さやか

●連絡先 TEL: 054-264-5351 FAX: 054-264-5351

キーワード

能「羽衣」、地域の「物語」の活用、学生による地域貢献、「羽衣」絵本



静岡・三保松原を舞台とする能「羽衣」を、地元の文化・歴史を学ぶための教材として、また地域活性化のための観光資源として役立てるための研究を行っています。2015年には観世会副理事長の山階彌右衛門氏の監修のもと、「羽衣」絵本を製作し、同年に学生約10名と「羽衣つたえ隊」を結成。静岡県下の子どもたちに読み聞かせ活動を行うとともに、様々な外国語版の製作とそれを用いた観光事業を行っています。学生発の企画として、羽衣ゲームや地元の企業とコラボした天女の衣装の制作、「羽衣」や三保を紹介するパンフレットの発行などを行った他、静岡市役所との連携による「羽衣」アニメーションの制作、SPAC(静岡県舞台芸術センター)所属俳優と静岡在住の音楽家による「羽衣」劇の上演など、「羽衣」を軸とした地域活性化事業は様々な広がりを見せています。



羽衣カードゲーム



羽衣絵本

アピールポイント

学生の柔軟な発想、楽しむ力が、本活動のアピールポイントです。「羽衣」を生かした学生たちとのコラボ企画をお待ちしています。

第二言語の知識と習得のメカニズム

国際言語文化学科 須田 孝司

●連絡先 TEL : 054-264-5357

キーワード

第二言語習得，英語教育



日本人英語学習者の文法能力と即時的な言語理解の過程について研究しています。日本語と英語の文法構造について生成文法理論に基づき分析した上で、日本人が日本語や英語で書かれた文をどのように理解しているのか検証しています。

日本人英語学習者の文理解の過程が解明されれば、日本人が漠然と感じている英語に対する不安(「日本人だから英語ができない」等)を取り除くことができ、日本人の英語に対する学習意欲を向上させることができます。また、人間の言語習得の過程が明らかにすることができれば、言語障害者の言語機能の回復過程の測定・リハビリテーション等にその知見を応用できる可能性があります。



ストレスと健康の心理学

国際言語文化学科 園田 明人

●連絡先 E-Mail : sonoda@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

心理的ストレス, 適応, 健康, 学習性無力感, 学習心理学, ポジティブ心理学, ウェルビーイング



ストレスと適応・健康、無気力、抑うつなど、臨床的問題の基礎メカニズムを、心理学の観点から解き明かそうとする、実証的研究を行っています。

基礎メカニズムの中でも、パーソナリティ要因の作用や、環境刺激に対する認知・連合学習のメカニズム、抑うつや動機づけに及ぼす効果などを明らかにする研究などを行っています。

最近では、オプティミズム／ペシミズムやポジティブ・イリュージョンと適応、ウェルビーイングとの関係に関心を持っています。また、産業場面や教育場面の問題、さらには震災ストレスや、中高生のネット依存の問題など、より現実的な問題に寄与する研究も行っていきたいと考えています。

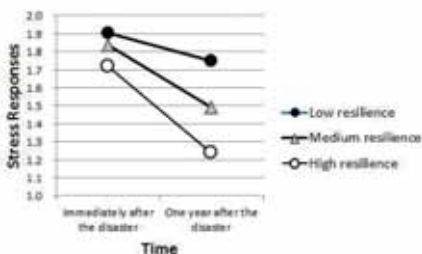


図1 精神的回復力と震災ストレス反応：震災直後は、精神的回復力に関わらずストレス反応が強いが、1年後は、精神的回復力が高い方が、ストレス反応が弱い。

(園田, 2013)

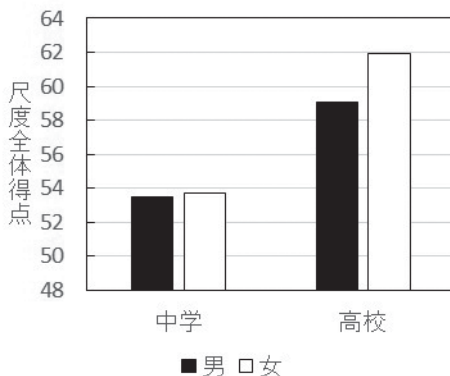


図2 中高生版ネット／スマホ依存傾向測定尺度の開発：高校生は中学生よりも依存尺度の得点が高かった。

(園田, 2019)

アピールポイント

研究スタッフがいないため、共同研究を御希望の方は、お互いに分担して、協力しながら進めることを希望します。

アフリカにおける地域の特性と潜在力を活かした災害対策と開発援助



国際関係学研究科 孫 暁剛

●連絡先 TEL: 054-264-5322 FAX: 054-264-5322

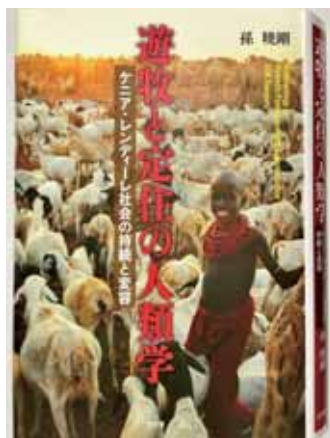
キーワード

アフリカ, 気候変動, 自然災害, 開発援助,
地域の潜在力, 多様性, ケニア, 遊牧民



21世紀はアフリカの世紀と言われています。アフリカの国々は今、政治の安定化、急速な経済成長、そして多様な自然環境と社会・文化を活かして発展を続けています。私は以下のテーマで研究を進めるとともに、アジアとアフリカの理解・交流・協力の促進をめざしています。

- 1) アフリカの乾燥・半乾燥地域に暮らす遊牧民の生業と社会・文化に関する生態人類学的研究
- 2) グローバルな気候変動にともなうアフリカの環境変化と自然災害の増加に対する地域社会の対応と地域間比較
- 3) 地域の潜在力（多様な自然環境と在来の知識・技術・伝統的な対応など）と、防災科学や開発援助を融合した総合的な災害対策の構築
- 4) アフリカを中心とした海外学生実習の企画・運営
- 5) アフリカに関する文化理解や国際交流を支援するためのデジタル映像・写真ライブの製作



小さな技術革新が大きな変化をもたらす：長年重い水タンクを背負って運んだ遊牧民の女性たちは、最近このローリング水タンクを導入して生活を劇的に改善した。

アピールポイント

地域社会のニーズを理解し、地域の潜在力を活かし、草の根レベルの支援とSDGsの実現に目指しています。

地域社会の多文化共生

国際関係学科 高畑 幸

●連絡先 TEL：054-264-5323 FAX：054-264-5323

キーワード

地域社会, 多文化共生, 在日外国人, フィリピン人



地域社会の多文化共生に関する実証的研究。外国人住民の組織化、地域の日本人住民への啓発を含めた総合的な関わりを模索しつつ、各地域の実情にそくした地域づくりを側面的に支援している。



平安時代和文の語彙語法の研究／日本語の歴史／現代日本語

国際言語文化学科 **竹部 歩美**

●連絡先 TEL：054-264-5341

キーワード

日本語、源氏物語、国宝源氏物語絵巻、日本語史、現代語、文法、敬語、写本、くずし字



平安時代の言語の有り様を知ろうとすると、『源氏物語』を避けて通ることはできず、これを正しく読解する必要があります。『源氏物語』を正しく読解しようとするとき、平安時代の日本語の文法や語の意味を正しく理解する必要があります。『源氏物語』を正しく現代語訳しようとするとき、現代語を正しく理解する必要があります。

古代語から近代語まで連綿と続く言語変遷の流れにあるものが現代の日本語です。このことを念頭に置きつつ、古代・現代の日本語—特に文法—の研究を行っています。

- ・平安時代の文法、語彙、敬語の研究
- ・『源氏物語』を日本語学的に調査したうえでの精確な逐語訳の追求
- ・国宝『源氏物語絵巻』と源氏物語写本の日本語学的研究
- ・現代語の文法を学校文法に基づいて歴史的観点から解説しようとする試み
- ・現代日本語の敬語の調査と研究

アピールポイント

- ・源氏物語を読む講座や源氏物語写本（くずし字で書かれたもの）の読解講座の講師を県内で毎年担当しています。
- ・改まった場面での日本語の運用（例：敬語の使い方・メールの書き方）の指導に取り組んでいます。

日英語の語法・文法の認知言語学的研究/言語コミュニケーションにおける対人配慮

国際言語文化学科 田村 敏広

●連絡先 E-Mail : tamuratoshi@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

言語学, 認知言語学, 言葉の意味分析, 英語教育, 日本語教育, 言語コミュニケーション, 対人配慮, 言語戦略

・認知言語学では、言葉の背後には常に人間が存在し、さまざまな言語表現は私たち人間の物事の捉え方を反映していると考えます。つまり、言葉を分析すると人間の思考や認識の仕方が見えてくるのです。このような観点から文法を見ると、文法は単なる言語事実の規則化ではなく、文法はなぜそのような形をしているのか、その理由が見えてきます。このような視点は、英語教育、日本語教育に大きく役立つと考えています。

・言語コミュニケーションでやりとりされる発話は、必ずしも新情報をやりとりしているわけではありません。むしろ、意味のない発話や、すでに旧情報となった事柄を伝える発話の方が多いのではないでしょうか。このような発話の目的は、多くの場合、対人配慮です。私たちの言語コミュニケーションは対人配慮に溢れています。対人配慮の観点から見ることで、私たち自身の言語コミュニケーションの仕組みや戦略が見えてきます。



アピールポイント

地域社会のニーズを理解し、地域の潜在力を活かし、草の根レベルの支援と SDGs の実現に目指しています。

ゲームと社会の可能性



国際言語文化学科

ディハーン・ジョナサン
(Jonathan deHaan)

●連絡先 TEL: 054-264-5355

キーワード 教育ゲーム, ゲームデザイン, 教授法, 生涯学習, 教育改革, コミュニティ (地域), クリエイティビティ (創造性), クリティカルシンキング (批判的思考法), 第二言語習得



ゲーム(ボードゲーム、テレビゲーム、オンラインゲームなど)を用いた第二言語指導や学習サポートとシミュレーションに関心があり、教育の向上に寄与すべく、教室、地域社会、家庭、またオンライン空間において、楽しく効果的に学習・指導する方法を研究し、その実践に取り組んでいます。

現在、ゲームラボでは以下のプロジェクトを行なっています

- ・コミュニティ(地域)：児童館にてゲームを教え、ゲーム遊びを通して子供や家族にもたらず社会的、心理的、認知的効果を調査する。
- ・コラボレーション(連携)：地元企業にアプローチして、彼らのビジネス手法を学び、また彼らの製品と市場を支援、発展させる方法を探る。
- ・クリティカルシンキング(批判的思考法)：プロのゲームデザイナーと交流し、より改善されたゲームを市場投入できるよう、彼らの製作中のゲームを評価するシステムを立ち上げる。
- ・クリエイティビティ(創造性)：高速プロトタイプを通じて、我々自らが革新的ゲームを開発する。

ゲームラボでは企業や団体と以下のようなプロジェクトを行なうことが可能である。

- (1)革新的(教育)ゲームを作る。
- (2)開発(教育)ゲームを評価し、改善する。
- (3)学校、病院などのコミュニティ組織でゲームのプログラムを確立する。



**アピール
ポイント**

Learn to play; play to learn.
(再生することを学ぶ、学ぶために遊ぶ。)

言語産出研究、言葉への気づき教育

国際言語文化学科 寺尾 康

●連絡先 TEL: 054-264-5252

キーワード

言い間違い分析, 言語産出モデル, 言語教育



言い間違いという、すきま的な言語資料を使ったユニークな研究
ポスト早期英語教育としての言葉への気づき教育についての研究

言い間違いはただの笑いの種になるだけではなく、言語産出の過程を知る上で重要なデータである。新聞コラムで取り上げられる日常の「間違った日本語」と呼ばれるものにも学問的な背景がある。言い間違いの観察、心理言語学的な実験を行い、言語産出モデル中の文法的符号化、音韻的符号化について研究を試みている。

小学校に必要なのは英語教育というより言語教育である、という観点から面白いことばへの気づき教材を作りたいと考えている。



総合知としてのハラールサイエンスの確立とハラール産業を通じた普遍的商品・サービスの探究



国際関係学科 **富沢 寿勇**

●連絡先 TEL：054-264-5321 FAX：054-264-5321

キーワード 総合知, ハラールサイエンス, ハラール産業, イスラーム, ムスリム, 一般消費者, 普遍的商品・サービス, ツーリズム, 認証制度



ムスリムは現代世界で巨大な消費者層を形成しつつあり、産業界にとって無視できない存在となっている。イスラーム市場を対象としたハラール産業は食品、医薬・化粧品、衣料品から輸送・貯蔵、金融・保険、ツーリズムなどのサービス分野に至る広範な領域にまたがる。また同産業は、商品規格や品質保証、安全性などの国際基準を満たした上でハラール性を付加価値として加えつつ、認証制度を推進して、ムスリム、非ムスリムを問わず、一般消費者のニーズを満たすような普遍性の高い商品・サービスの開発を目指す具体戦略を取るのが常道になっている。このような背景に鑑み、私は人文社会科学と自然科学にまたがる総合知としての広義のハラールサイエンスの確立を提唱しつつ、グローバルな消費社会におけるローカルな価値観や多様な宗教規範を満足させる、より普遍的商品・サービスとは何かという課題に取り組んでいる。



(図1) バイオセンサー研究の民谷栄一教授(大阪大)らと日本ハラールサイエンス学会を設立し、人文社会科学と自然科学の総合知としてのハラールサイエンスの確立を進めている。本書はその試みの成果である。



(図2) イスラーム圏を射程に入れてハラール食品開発を進める県内食品卸企業との共同研究の成果の一端として関係者に配布された「しずおかムスリムおもてなしガイドブック」。(富士農商事株式会社との共同研究による成果)

アピールポイント

グローバル展開を目指す企業のハラール対応や、国内のムスリムツーリズム対応などに関し、講演や相談などのご協力はできます。

さまざまな言語表現を素材として、人間のころにある「言語」の仕組みを明らかにする研究



国際関係学研究所
(大学院) 比較文化専攻 **長野 明子**

- 連絡先 E-Mail: nagano.9@u-shizuoka-ken.ac.jp
- ホームページ <https://researchmap.jp/7000004456>

(本研究内容についてご興味のある方は、地域・産学連携推進室までご連絡ください。)
TEL : 054-264-5124 E-Mail : renkei@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

文法、語彙、普遍性と多様性、名づけ、言語接触

現代言語学の最終目標は、人間のころにある抽象的で複雑な体系としての「言語」に到達することである。しかし、登攀ルートとしては、身近にある非常に具体的な言語表現やコミュニケーション活動をよく観察すること以外に近道はない。私の研究では、

【単語】や【名前】のレベルを中心にして、具体事例からメタ的な構造をとりだすことを行っている(図1)。近年取り組んでいるのは、日本語と英語といった異なる2つの言語が混交する現象である。図2にあるのは、国立情報学研究所が提供する「クックパッドデータセット」を用い、クックパッドでの料理名や料理手順の説明に、どのような文字がどの程度使われているかを調べた研究である。また、日本語の地域方言の豊かさに注目し、福岡県や熊本県のシルバー人材センターとの共同研究も実施してきた。



図1 言語理論についての研究
西山・長野(2020)『形態論とレキシコン』
開拓社、東京。

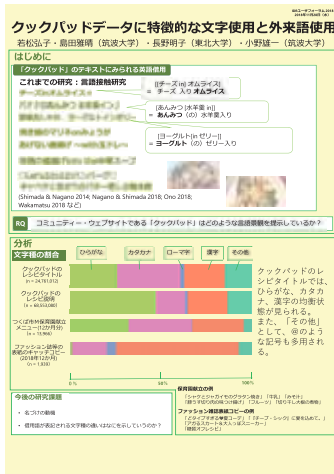


図2 レシピサイトCookpad からわかる
日本語と英語の混交の様子
国立情報学研究所 IDR ユーザフォーラム
2018での発表の一部

アピールポイント

- 言語のビックデータ研究を行いたいのだが、言語学の基礎知識なしに行うのは不安という場合
- 使おうとしている英語(的)表現、カタカナ語名称の「言語的妥当性」を知りたい場合
- ことばに関することはだいたい何でも興味があります

障害をめぐる〈共生の文化〉に関する実証的研究

国際言語文化学科 奈倉 京子

●連絡先 TEL: 054-264-5346
E-Mail: nagura@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード 日本と中国、障害、スペシャルオリンピックス (SON), 共生の文化、ケアのコミュニティ、カルティベーション (cultivation), フィールドワーク, 就労継続支援B型



本研究は、障害者権利運動と連携しながら障害者の社会的包摂を指向するのとは異なる視点に立ち、様々な差異をもつ人々が、官許の統治の論理に巻き込まれず、かつ当事者（障害者およびその家族）の主体性に過度に頼らない共生論理を如何にして形成できるかを検討する。具体的には、「スペシャルオリンピックス静岡」を対象に、言語的な意思表示が困難な中重度の知的障害をもつ成人と支援者、介助者等多様な存在者たちが、家族を超えた他者とつながる「中間の領域／組織」における相互行為、協働作業を通して、「健常者（マジョリティ）／障害者（マイノリティ）」という二項対立の壁を乗り越える「共生の文化」を生み出すことは如何にして可能かということを、参与観察により探究する。

これまで障害者の共生は、主流社会に何らかのかたちで「統合」されるか、それに対して自己主張をするかで実現できると考えられてきた。これに対し本研究では、「カルティベーション (cultivation、耕すこと)」を手がかりに、日常のミクロな社会関係における社会的価値をつくりかえることで生まれる「共生の文化」を探究する。



**アピール
ポイント**

奈倉京子『中国の知的障害者とその家族—「新しい社会性」のエスノグラフィー』
東京：東方書店、2023年2月。

19世紀から20世紀のフランス文学と社会

国際言語文化学科 西村 晶絵

●連絡先 TEL: 054-264-5348
E-Mail: a-nishimura@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

フランス文学, キリスト教, ジェンダー, セクシュアリティ, アンドレ・ジッド, ナショナリズム



19世紀末から20世紀前半に執筆活動を行った作家アンドレ・ジッド（1869–1951）を中心としたフランス文学の研究を行っています。ジッドはプロテスタントかつ同性愛者という二つの点で、フランス社会のマイノリティでした。カトリック的な価値観が浸透し、同性愛についての差別や偏見がまだ根強かったフランス社会において、この状況に一石を投じようとしたのは、ジッドをはじめとした作家たちでした。

社会問題に対して積極的に発言し、社会で存在感を示していた作家たちそれぞれの立場を、宗教思想とも絡めながら整理し、その特徴を明らかにすることを目指しています。現在は、19世紀末に台頭し、多くの作家たちを惹きつけた極右政治思想団体とカトリックの結びつきについても関心を持っています。



(1) アヴィニョン教皇庁



(2) モン・サン＝ミッシェルの修道院



(3) ノートル＝ダム大聖堂（パリ）



(4) サクレ＝クール寺院（パリ）

アピールポイント

これまで「病」というテーマでジッドの文学研究を行ってきました（『アンドレ・ジッドとキリスト教―「病」と「悪魔」にみる「悪」の思想的展開』、彩流社、2022年。拙著にて第40回渋沢・クロード賞奨励賞受賞）。コロナ時代と文学・文化などのテーマでのレクチャーも可能です。

ビザンティン帝国史およびギリシャ文化史の研究

国際言語文化学科 橋川 裕之

●連絡先 E-Mail : hashikawa@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

古代ギリシャ・ローマ文明, ビザンティン帝国, ヘレニズム, キリスト教, 哲学, 歴史叙述



私の専門は広く言えば西洋史学あるいはヨーロッパ史学、狭く言えば、東ローマ／ビザンティン帝国の研究です。ビザンティン帝国とはコンスタンティノープル(今日のイスタンブール)を首都として、1453年まで存続した東方のローマ帝国のことです。「ローマ人の共和国」(ラテン語でRes publica Romana)、つまり正式なローマ帝国を標榜したこの国家で生じた様々な事件や現象、社会・文化・制度の特質と変化のプロセスなどを当時の様々な史料にもとづいて説明することが私の課題です。ここ何年かは、世界史におけるビザンティン帝国の役割、すなわち、中世に栄えたこの国家が古代世界から何を受け継ぎ、周辺世界(たとえばルネサンス期のイタリア)や後の世代に何を引き渡したかという問題にも取り組んでいます。



皇帝ユスティニアヌスと皇妃テオドラ
ラヴェンナのサン・ヴィターレ教会のモザイク



ローマのサン・ピエトロ広場

アピールポイント

私の専門にかかわるトピックのレクチャー等、対応可能です。

国際言語文化学科 橋本 勝

●連絡先 TEL：054-264-5243

キーワード

教育, 社会, 教師, 特別活動, 学校行事, 運動会



私は、日本の小学校における「教科外の教育活動」の歴史を研究しています。日本の小・中学校ならびに高校のカリキュラムは、国語や社会、数学などの教科の領域と、道徳や特別活動など教科外の教育領域から編成されています。この中の特別活動は、学級・ホームルームを単位とする活動や、全校生徒による生徒会活動、そして、運動会や展覧会や学芸会などの学校行事を内容としておりますが、私は、おもに学校行事の歴史を調べてまいりました。

運動会は、種目の一つとして、気を付け！・右にならえ！・まわれ右！などの「隊列運動」が行われた。運動会は、近代的な「規律訓練」を普及させるメディアでもあった。

初期の運動会の記事

北足立郡蕨宿頭神学校にては去月〔10月〕九日を以て同郡新曾村妙見寺に向け遠足運動を催せり〔略〕進路は中仙道を南に取り行く数丁余更に右折して又数丁を歩せば戸田学校（新曾分教室）に至る茲にて暫時休憩して後軽体操〔隊列運動〕を行ひて終て又隊伍を整へ道を西に取り暫らくして妙見寺に着す〔略〕」埼玉教育雑誌 第62号 明治21年11月5日

遠く離れた埼玉県と静岡県的高等女学校で同じような運動会を実施している。運動会はある特定の社会階層の文化や、ジェンダー文化の醸成装置でもあった。

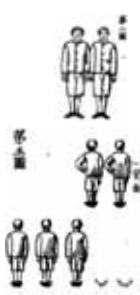
国際関係学部



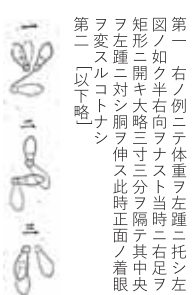
浦和高等女学校の運動会（明治42年）埼玉県教育史 第4巻



田方郡立三島高等女学校の運動会（大正2年）三島HP（目で見える「三島の歴史」27,000年のあゆみ）



水野浩『新撰体操書』（明治19年）



広瀬伊三郎『新式隊列運動法』（明治20年）

アピールポイント

教育の歴史社会学を研究しています。

ロシアの思想・イデオロギー、アイデンティティと国際政治

国際関係学科 浜 由樹子

●連絡先 E-Mail : yhama@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

ロシア, 国際政治, ユーラシア主義,
アイデンティティ, アジア主義, イデオロギー



国際政治と国家・地域のアイデンティティ（「我々はどこに属するのか」「我が国とは何か」）の関係について研究している。主たる事例として、これまでロシアと日本を取り上げてきた。いずれも、近代化の開始以来、ヨーロッパとアジア、西と東の間で独特のアイデンティティ形成を進め、歴史的転換点を迎えるたびにこの問いに向き合ってきた国・地域である。

ソ連邦解体後のロシア社会では「ロシアとは何か」が切実に問われた。なかでも、ロシアを「ヨーロッパとアジアの間の独特な多民族・多文化地域」と定義したユーラシア主義と呼ばれる思想は、幅広い層からの注目を集め、今ではロシアの外交理念にも影響を与えている。国際政治における現代ロシアをどう捉えるか、日本はこれにどう向き合っていくことができるか——「ユーラシア」概念をキーに考察している。



「ロシア：ヨーロッパとアジアの間」

アピール ポイント

2022年以来、ロシア・ウクライナ戦争についての解説や講演、取材対応も多数行っている。

福沢諭吉の全集未収録社説の発掘



国際言語文化学科 平山 洋

●連絡先 TEL：054-264-5388 FAX：054-264-5388

キーワード

福沢諭吉, 時事新報, 石河幹明, 井田進也, 丸山真男, 脱亜論, 安川寿之輔, 慶應義塾, 日清戦争



福沢諭吉(1835～1901)が主宰していた新聞『時事新報』(1882～1936)の社説の起草者を新たな方法論によって判別したうえ、その中から福沢由来の社説を選び出すことでジャーナリストとしての福沢の全体像を再構成しようとしています。加えて判別の方法論の確立のために、まず福沢の署名入著作の本文をデータベース化し、それらを基礎資料としつつ、無署名社説と語彙・文体の比較を行っています。福沢執筆と推定される全集非収録社説はテキスト化して、署名入著作とともにネット上のサイト「平山洋氏の仕事」で公開しています。

本研究の具体的な目的は福沢健全期(1882・3～1898・9)の全社説の起草者を判定することで、現行版福沢全集の「時事新報論集」(第9巻～第16巻)に適切な加除を施すことです。



アピールポイント

福沢諭吉の思想について研究しています。

戦争責任、アイデンティティと国際関係

国際言語文化学科 ファイファー・マティアス
(PFEIFER Matthias)

●連絡先 E-Mail : pfeifer39@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

戦争責任, 文化とアイデンティティ, 集合的記憶,
日本人論

90年代後半以降、日本では第二次世界大戦についての議論が次第に白熱しはじめ、戦争は
大衆文化(映画、マンガ等)でもよく取り上げられるテーマとなった。ドイツでは60年以上に
わたるいわゆる「過去の克服」に、「ホロコーストのメモリアル」の完成によってとりあえず終
止符が打たれたが、日本のほうは議論の終わりがまだ見えない。グローバル化の中で世界にお
ける自分の位置を探している日本と日本人のアイデンティティーが、過去と密接につながっ
ている問題であることは、特にバブル崩壊後にメディアで取り上げられている戦争責任論で
よく表わされている。日本と似た歴史を持つドイツと比較して、その戦争責任論の相違点と共
通点を明らかにし、ドイツの成功と失敗から日本が何を学べるかが、研究のアピールポイント
である。

第二次世界大戦(または太平洋戦争、15年戦争)の大衆化は最近の現象ではない。実は
50年代から様々なジャンル(映画、文学)で戦争体験は取り上げられていた。70年代から
80年代にかけて戦記マンガのブームも見られる。90年代から、大衆向けの戦争映画や小説
がベストセラーになった。戦争を描写する漫画は過去と現在、日本とアジアとの関係などの
テーマは、以前よりも日本社会で注目の的となった。それは元々人気のあるジャンルである
「日本人論」の延長であると言える。そういう映画、マンガの中で日本人であることはどう描写
されているか、その内容が観衆や読者のアイデンティティ形成にどう影響しているかが、本研
究の目的である。

アピール ポイント

「ドイツ語圏(ドイツ・スイス・オーストリア)を中心に、ヨーロッパの文化・
社会・歴史への理解を深めるための、文化交流ほか各種交流を行う組織等の支援
ができる。相談、講演、翻訳・(逐次)通訳(ドイツ語、日本語、英語)、分野別
の要綱作成など。」

文学による新しい地域の魅力の創出 するが文化の散歩道／しずぶんプロジェクト



国際言語文化学科 細川 光洋

- 連絡先 TEL：054-264-5342 FAX：054-264-5342
E-Mail：hosokawa@u-shizuoka-ken.ac.jp
- しずぶんプロジェクトHP <https://shizubun.asakura.ne.jp>

キーワード

地域資源としての文学, 文化資源学, コンテンツツーリズム, するが文化の散歩道, しずぶんツアー, 小泉八雲



2016年に焼津小泉八雲記念館、焼津市観光協会とゼミとの連携プロジェクト「焼津&八雲Y Yプロジェクト」を発足。文学を文化資源ととらえ、地域の新しい魅力づくりに取り組んできた。

2018年には、文学館連携によるバスツアー「しずぶんツアー」を企画・提案。同年秋、中勘助文学記念館（静岡市）、藤枝市文学館、焼津小泉八雲記念館をめぐる学生によるガイドツアーを開催。2019年秋には、3館にあらたに静岡市立芹沢鉄介美術館を加え、第2回しずぶんツアー「するが文化の散歩道」を開催した。2020年度からは4館をめぐるスタンプラリーを開催している。ツアーのロゴやリーフレット、ノベルティグッズやオリジナルスタンプも学生たちによる制作。第5回となる2022年度には、各館の紹介ビデオの制作やARによる撮影ポイントの設置なども行っている。



「するが文化の散歩道」スタンプラリーチラシ



紹介ビデオ（サムネイル）



制作したノベルティグッズ（スタンプ図入り）

アピールポイント

平成28年度「地域みらい研究賞」（静岡県立大学）受賞。
焼津魚河岸マーク入り「八雲手拭い」「妖怪手拭い」（2017）、「焼津やいちゃんLINEスタンプ」制作（2017）「しずぶんガイド」(2018)

ロシアの東方政策と極東地域開発に関する研究



国際言語文化学科 堀内 賢志

● 連絡先

E-mail : khoriuchi@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

ロシア、極東地域、東方シフト



ウクライナへの軍事侵攻を続けるロシアは、国際社会の強い非難を受けています。一方で、アジア・ユーラシアをはじめとする非欧米圏には、ロシアに対してより宥和的な姿勢を持ち続ける国も少なくありません。その背景には、ロシアがそうした非欧米諸国と独自の関係を築いてきたことがあります。こうした「非欧米」ととの関係を強化していくための重要な政策としてプーチン政権が進めてきたのが、アジア太平洋諸国との関係強化と極東・シベリア地域の開発を進める「東方シフト」と呼ばれる政策です。エネルギー開発や輸送インフラの整備、極東地域の社会インフラ整備など、ロシアはその取り組みを一層強化しようとしています。こうした政策の進捗状況を追いながら、ロシアとアジア・ユーラシアの非欧米諸国との関係や国際秩序の行方、そして日露関係の今後についても考察しています。



ウラジオストク・ルースキー島の極東連邦大学キャンパス。2012年にウラジオストク APEC の会場として建設され、2015年より年次開催されている「東方経済フォーラム」の会場ともなっている。



中露国境の川に浮かぶボリショイ・ウスリースキー島（中国名・黒瞎子島）とロシア側をつなぐ橋。同島はかつて中露領土問題の係争地だったが、2004年に「面積等分」での分割が合意された。

アピールポイント

ロシアの隣国であり、領土問題を抱え、また資源輸入を始めとする経済関係を維持する日本にとっても重要なテーマです。

静岡の政治 日本の政治（比較研究）

国際関係学科 前山 亮吉

●連絡先 TEL：054-264-5265

キーワード

静岡, 日本, 政治構造, 地方政治, 比較, 選挙, 投票行動, 政治史



静岡県の政治は日本政治の縮図といわれて久しい。しかしそんな静岡県の政治にも大きな構造変動の予兆が見られる。こうした予兆の持つ意味を考察することが本研究のアピールポイントである。

目的・概要は2008年7月刊行の拙著『静岡の政治 日本の政治』（静岡新聞社、静新新書25）の「はじめに」に記したとおりである。比較（国際・国内）と政治史（過去との比較）という方法を駆使して、静岡県の政治の構造変動を分析している。「保守王国」とのみ言われることの多い静岡政治の新たな顔を発見する事をめざす。

研究途上であるがいくつかの発見を箇条書きで記すと次のようになる。

- ・市町村合併の結果、旧郡部を統合して出来た県内新市における投票行動には都市型への変化が見られる。
- ・上記変化は政令市である浜松市で特に顕著であり、北・西・天竜区では従来見られなかった投票行動が05衆院選・07参院選で観察できた。
- ・戦後の静岡県知事は約20年～26年という長いサイクルで官僚と政治家との間を往復しているように考えられた。しかし、官僚でも政治家でもない学者・川勝知事の登場は、画期的な事態である。

ヒスパニック世界の形成と展開



国際言語文化学科 松森 奈津子

- 連絡先 TEL : 054-264-5263
E-Mail : nmatsu@u-shizuoka-ken.ac.jp
- ホームページ <https://matsumori.memento-mori.casa>

キーワード ヒスパニック, スペイン, ラテンアメリカ, 移民, 多文化主義, 共存, グローバリゼーション, 大航海時代, カトリック



ヒスパニックとは、スペインと、ラテンアメリカやアジアにおけるその旧植民地諸国(メキシコ、キューバ、プエルトリコ、フィリピンなど)の人々や文化を総称する言葉です。近年は特に、ハイチ(フランス語圏)やブラジル(ポルトガル語圏)を含めたラティーノという言葉とともに、アメリカ合衆国最大のマイノリティ勢力を指す用語として、メディアなどで広く使われています。ヒスパニックの特色は、スペイン語を母語とし、カトリックの伝統に基づく価値観を共有する点にあります。我が国でも、この文化圏から日系を中心とする定住外国人の受け入れが進んでおり、身近な異文化の一つです。

私の研究は、こうしたヒスパニック世界が歴史的にどのように形成されてきたのかを、グローバリゼーションの端緒とされる大航海時代(15c.半～17c.半)を中心に明らかにするものです。また、この文化圏の人々が移民という形でアメリカや日本に定住する現代において、既存の社会との共存はいかにして可能になるのかを、多文化主義の観点から模索するものです。



スペイン語話者の分布

[出典 : Spanish Language Domains <http://spanishlanguagedomains.com/the-spanish-language-the-facts-and-figures/>]

アピールポイント

ヒスパニックの歴史的・文化的・宗教的背景をお伝えし、ビジネスや交流を望む自治体や企業とのかけ橋になればと思います。

国際経営論、経営学

国際関係学科 宮崎 晋生

●連絡先 TEL&FAX : 054-264-5338

キーワード

国際経営論, 経営学, 企業の実展史,
コラボレーションとオープン・イノベーション



現在の関心は企業・組織間の連携によるイノベーションです。一方当研究室では地域の企業の皆様を集めたコラボレーションのためのワークショップを行う予定です。地域にて組織/企業の枠を超えて、複数の企業・組織が共同で新しい技術や商品・サービスの開発をおこなうきっかけになるオープン・イノベーションの「場」を創りたいと考えております。

特に、これまでチャレンジしてきたがうまく花開かなかった技術・知識/(死蔵)特許や、これから挑戦したいが社内の賛同が得られにくいという技術・商品・サービス企画を発掘、再チャレンジする「場」の創造を目指しています。

静岡県は「産業のデパート」と呼ばれ、製造業比率が高い全国有数の「ものづくり」県です。しかし、アジア諸国の経済成長もさることながら、ドイツを中心とした製造業革命プロジェクトである「インダストリー4.0」が進められている中、「ものづくり」県の評価もいつまで続くか不透明です。過去の成功体験やこれまでのパターン/法則にとらわれず、異質な知識が結びつく「場」づくりを進めていきたいと思ひます。

また革新的な取り組みを行って来た企業様にとりましては、過去の歴史を振り返ることもお考えの向きがあらうかと存じます。社史づくり等にもご協力ができれば幸いです。



ワークショップの様子



学生による静岡県イノベーション企業の調査



アピールポイント

業界やセクターの枠を超えた、新しい結びつきを創る「場」を一緒につくりましょう。

第一次世界大戦期・大戦後のアメリカ社会

国際言語文化学科 望戸 愛果

(本研究内容についてご興味のある方は、地域・産学連携推進室までご連絡ください。)
TEL : 054-264-5124 E-Mail : renkei@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

アメリカ合衆国, 戦争体験, 歴史社会学, ジェンダー,
第一次世界大戦

第一次世界大戦期・大戦後のアメリカ社会について、歴史社会学の視座から研究を行っています。今まで取り組んできた主な研究テーマは、下記の通りです。

1. 男性退役軍人組織の設立と戦場巡礼事業
2. 女性従軍体験者の組織化過程
3. 戦中・戦後における戦没兵の母親の役割

加えて、アメリカの政治学者シンシア・エンローについての学説史的な研究も行っています。エンローは、戦争・軍隊のジェンダー分析に取り組んだパイオニアとして知られている研究者です。



日本におけるフェデリコ・ガルシア・ロルカの受容



国際言語文化学科 森 直香

● 連絡先

E-Mail: naokamori@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

スペイン文学, 比較文学, 受容研究,
フェデリコ・ガルシア・ロルカ



本研究は、スペインの詩人・劇作家フェデリコ・ガルシア・ロルカ(1898~1936)の作品の日本における受容についての初めての体系的研究である。彼の作品はセルバンテスと並んで世界中で愛読されているが、日本における受容についての細かい検討は行われていない。本研究ではロルカ作品の受容を概観した上で、当時の書評・劇評・論文等を参考にしながら日本人読者が何を期待して作品を読み、どのような点を評価しているかを考察し、受容を推進した要因を明らかにすることを目的とする。このような分析は作品の本質を明らかにするだけでなく、外国文学の紹介・翻訳のあるべき姿を探ることにもつながり、文化の発信について考える上でも有益である。

本研究では、戯曲を中心にロルカ作品の日本での受容の過程を検討し、以下の4点に焦点を当てて受容を推し進めた要因を明らかにする。

1) ロルカ作品の受容に影響を及ぼした要因

日本においてロルカの作品の受容が本格化するの第二次世界大戦後のことである。ロルカの受容がなぜ1950年代に急激に進んだのか、受容を推し進めた要因を考察する。

2) 日本人読者の解釈・評価

ロルカの作品は、1950年代に本格的に紹介されると、三島由紀夫、安部公房らの文豪を含む多くの読者を惹きつけた。日本人読者が作品にどのような評価を下したかを考察し、日本でも広く読まれている理由を探る。その理由としては3) 4)に挙げる作品の普遍性、日本文化とロルカの世界観の共通点にあるのではないかという仮説を立てているが、考察を通じてそれを実証する。

3) ロルカ作品の普遍性

ロルカ作品の普遍性は、戯曲の場合、①テーマの普遍性と②俳優の動きと台詞から舞台装置に至るまでの様式化によると考えられる。様式化とは、対象をそのまま描写するのではなく、単純化・類型化して表現する技法で、能・文楽・歌舞伎に多く見られる。ロルカ戯曲では、俳優の台詞・動きから舞台装置に至るまで様式化が見られるが、様式化はどの時代のどの場所にも適用可能な普遍性を作品に与える。

4) ロルカ作品の世界観と日本文化の共通点

ロルカ作品が日本で愛されている理由はいくつか挙げられるが、その中に独特のキリスト教解釈とキリスト教以前の世界に属する原始的かつ汎神論的とも言える世界観があり、特に三大悲劇に色濃く表れている。

戦時・占領期の紙芝居研究



国際関係学科

森山 優

● 連絡先

FAX : 054-264-5099 (総務室)

E-Mail : moriyama@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

日本近現代史, 戦時体制, 占領期, メディア史, 地域史, 紙芝居



本学図書館は、掛川の篤志家、浦上喜平氏が収集・使用した一九四点の紙芝居（浦上史料）を所蔵しています。浦上氏は戦争中、掛川に集団疎開して来た東京の児童たちの世話や慰問活動に奔走し、その一環として紙芝居を上演しました。一個人が実際に使うために集めた史料群としては、国内最大規模です。紙芝居は子ども向けのものに加え、戦時期は政府が大人に向け国の政策をわかりやすく広めようとする内容のものが多く出版されました。浦上史料はそのどちらも含んでいます。本学の紙芝居研究会は、政府が国民に何を伝えようとしたか、人々がそれをどのように受容していったかを、具体的に研究しています。戦時期と占領期は180度異なる社会と思われがちですが、紙芝居というメディアを使って国民を啓蒙しようとする国のスタンスは一貫しています。



『金物総動員』日本教育紙芝居協会、1941（昭和16）年



『農地改革』発行年、発行者不明、戦後

アピールポイント

過去を学ぶことは、現在を知り、未来をよりよくする手がかりをつかむことです。地域に残された遺産を後世に伝えましょう。

国際社会の平和と安定に向けた協力の現状と展望



国際関係学科

山下 光

● 連絡先

TEL : 054-264-5336

● ホームページ

<https://db.u-shizuoka-ken.ac.jp/show/i-yamashitahikaru.html>

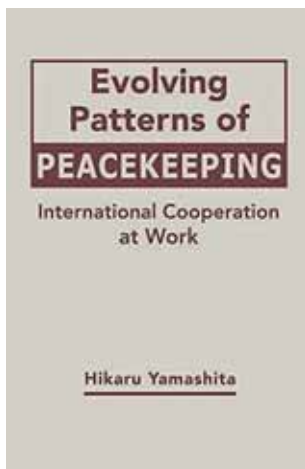
<https://researchmap.jp/hikaruyamashita>

キーワード

国際平和、国際協力、国際政治学、平和維持活動、平和構築、国際関係理論、国際組織・機構、人道・人権問題、安全保障



世界各地で発生する紛争や戦争を終結させ、平和をもたらすために国際社会が行う活動（平和維持：PKO、平和構築、人道支援など）を主な研究テーマとして活動する一方、安全保障や国際関係理論に関連する教育や研究も行っています。心がけているのは、常に国際政治全体の動きをとらえながら具体的な問題を考えていく姿勢です。官民のシンクタンクで政策研究を行ってきた経験も活かしながら、現在や今後の国際政治、国際協力、国際秩序がどうなっていくのかを考えていきたいと思っています。



単著『平和維持活動をめぐる国際協力—協力パターンの進化と意義』（英語）



単著『人道的空間と国際政治』（英語）



単著『国際平和協力』

国際関係学部

現代中東における政治・紛争・宗教



国際関係学科 **山本 健介**

● 連絡先 E-Mail : k-yamamoto@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

中東，イスラーム，パレスチナ，エルサレム，聖地，
社会運動



現代中東の政治、特にパレスチナ問題という紛争の研究をしています。なかでもエルサレムをめぐる諸問題について多角的に分析してきました。これまでは複数の宗教伝統が重複する聖地の紛争について研究してきましたが、最近では、イスラエルの占領・併合下に置かれているエルサレムで、パレスチナ人の住民がどのような抵抗活動を実践し、いかに日常生活を営んでいるのかという点にも関心を持っています。エルサレムの事例を中心にパレスチナ問題の研究を進めつつ、今後は、世界に見られる他の政治・紛争現象との比較も視野に入れていきたいと考えています。



写真 (1) 岩のドーム (エルサレム)



写真 (2) パレスチナの象徴オリーブの樹
(ヘブロン)

アピール ポイント

複雑に入り組んだ構造を持つパレスチナ問題について学び、物事を多角的・多面的に捉える訓練をしませんか？

国際言語文化学科

米野 みちよ



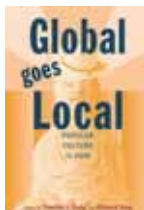
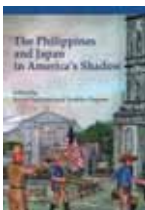
- 連絡先 TEL : 054-264-5124
E-Mail : michiyoyonenoreyes@u-shizuoka-ken.ac.jp
- ホームページ 外国人 EPA 看護師プロジェクト <https://www.epa-project.com/>
フィリピン・カリンガ口承伝統 <https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~yoneno/database.html>

キーワード フィリピン, 東南アジア, EPA 看護師・介護士, 先住民, 外国人看護師・介護士, 在日外国人, nurse migration, ゴング音楽, 民謡

フィリピン北部の先住民の人々は、フィリピン国家の境界の内側に住む。よってフィリピン人である。しかし、その境界の周縁地域に住む。そして、その周縁地域は、アメリカ植民地時代、そしてその後も、より直接的にアメリカと関わった。彼らは、マニラに行っても疎外感を感じてしまう。時として、自国であるはずの、マニラで生産されるフィリピンのポピュラー音楽よりは、アメリカのポピュラー音楽に、より親近感を見出す。そんなギャップに注目している。

日本にいる外国人は、都会でもいなかでも、日本の社会の周縁にすることが多い。半分日本の社会に根を下ろしながら、心と体の半分は、自国や世界を見ている。

そんな彼らの、マイノリティゆえの、「国家」の境界をすりと超えていくタフさを、研究しています。



アピールポイント

外国人看護師・介護士の受け入れに関して、彼らはどのように日本に来る決断をしたか、日本で働いたり勉強しながら何を望んでいるのか。そして、なぜ転職したり帰国したりするのか。彼らの本音の声を聞いてきました。ご関心のある方たちと、情報の共有をしたり、一緒に勉強したりしたいと考えております。
<https://www.youtube.com/watch?v=wXXekWV6Xv0> 「看護師は見た！外国人看護・介護人材から学ぶ日本の展望」(東大 TV での講演)

スコットランドの言語／文学とナショナル・アイデンティティー

国際言語文化学科 米山 優子

(本研究内容についてご興味のある方は、地域・産学連携推進室までご連絡ください。)
TEL : 054-264-5124 E-Mail : renkei@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

スコットランド, スコッツ語, スコットランド・ゲール語, ナショナル・アイデンティティー



スコットランドの言語と文学を通して、ナショナル・アイデンティティーの在り方について研究しています。イギリスからの独立の是非を問うスコットランドの住民投票(2014年9月)、イギリス総選挙(2015年5月)、EU残留・離脱を問う住民投票(2016年6月)などの際には日本でも高い関心が寄せられました。イギリスという国を理解するにはその地域性を重視する必要がありますが、スコットランド独自の言語文化が歴史的背景と共に深く理解されるには至っていません。スコッツ語やスコットランド・ゲール語という英語以外の地域言語・少数言語の存在に焦点を当て、ヨーロッパの言語政策と照らし合わせながら、言語の社会的地位の向上や使用領域の拡大などを目指す取り組みを考察しています。



アピールポイント

- 地域言語・少数言語の辞書編纂や学校教育に注目しています。
- ヨーロッパにおけるイギリスの位置づけと多文化共生を視野に入れて研究しています。

異文化間コミュニケーション研究



国際言語文化学科

リダンポールアラン
(Paul A. Lyddon)

●連絡先 TEL: 054-264-5350

キーワード

社会記号学, マルチモダリティ,
情報通信技術 (ICT), オンライン国際交流

効果的なコミュニケーションには、ただ単に言語体系をマスターする以上のものが求められる。また、その際に視覚、聴覚、空間、ジェスチャーモードといった、その他の様々な記号資源の中から適切なものを選択し、実行に移すことも求められる。さらには、これらの様々な記号資源の可能域は、社会歴史的に基づくものの他に、社会的相互作用の中で常に意味交渉を重ねながら決められる。このようなコミュニケーションの発達は、とりわけ異なる文化的背景を持った者同士がかかわる際にさらに複雑なものとなるが、デジタル時代の幕開けとともに情報通信技術 (ICT) が爆発的に浸透していった現在、いたるところに見られるようになってきている。これを踏まえ、オンラインの環境下で、米国、英国、フランスといった様々な国の伝達者との国際交流を研究している。



アピール ポイント

国際交流の企画及び改善などのご相談について、お気軽にご連絡ください。

複素解析学とタイヒミュラー空間論

経営情報学科 天野 政紀

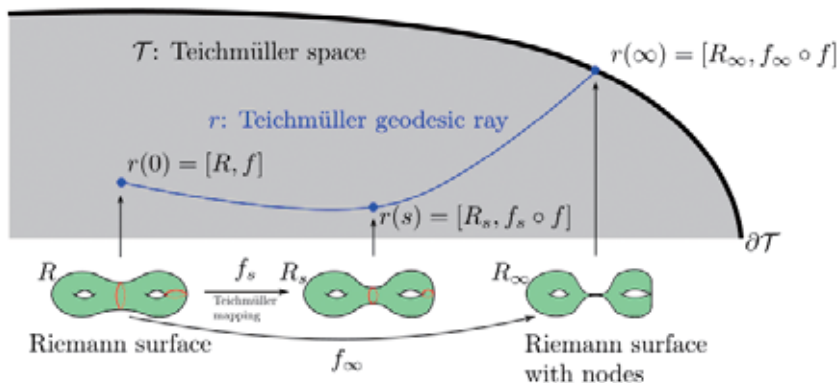
●連絡先 TEL: 054-264-5432

キーワード

複素関数, リーマン面, タイヒミュラー空間論

世の中にある様々な物体の形を数学的に扱うには、数と結びつけて考える必要があります。曲面上に複素数による座標を入れることで、リーマン面と呼ばれる多様体の一種ができます。これらのすべてを同時に考え、各々の曲面の歪み方の違いなどの構造を分類するための基礎理論は、タイヒミュラー空間論と呼ばれ、私の主な研究分野となっています。

タイヒミュラー空間論を利用することで、曲面の違いは曲面間の複素座標を利用してできる複素関数がどれほどの歪みを持つかによって数値化できます。最近の私の研究では、その数値の違いが曲面のどのような要素から発生するかを突き止め、各々の曲面を幾何学的な量を用いてパラメータ化しました。今後の研究では、そのパラメータを用いて曲面の性質を統一的に理解できるようにすることを考えています。



アピールポイント

本研究はICTイノベーション研究センター活動としても取り組んでいます。